

【最優秀賞】

1	71	りーちゃんのパ ンバ	今年で結婚40年です。フェザン誕生の年に結婚しました。フェザン開店当時があった、ジュエリー店「セレネ」で結婚の記念にと「イヤリング」を主人から買って頂きました。最初で最後のプレゼントです。そそっかしい私は大事な物もよく無くしたりしますが、「イヤリング」だけは今でも大切に大事なお宝にだけ使っています。フェザンってどういう意味だろうと主人に聞きました。「きじ」だよ。岩手県鳥巻と京都生まれの主人に岩手生まれの私が教えられました。23年前に主人は癌で51歳の人生を終えました。今は一人で、一カ月に1回くらいの割合で、地下の清次郎さんに大好きなお寿司を頂きに行くことが楽しみです。来月結婚記念日が来ますので一人少しいつもより高級な寿司を頂きに行く予定を立てています。
2	15	匿名希望	靴の揃え方、お膳の並べ方、おせちの作り方、祖母は私にとって教科書のような存在であった。高校卒業と同時に盛岡で暮らし始めた私に「祖母のサポート役」という大役が廻ってきた。親戚を見舞う為、祖母が一人で田舎から出てくるというのだ。自分が住む街を案内する事は照れくささも誇らしくもあった。駅のバスターミナルに降り立った祖母は、なぜかいつもよりも小さく見えた。見舞いを終え、帰りのバスまでの待ち時間、二人でフェザンで食事をした。私が「磯ラーメンにする」というと、「じゃあおばあちゃんも同じ」と祖母。ずっと私が「おばあちゃんと同じ」と言ってきたのにな、と少し寂しい気持ちになった。でその時の祖母の嬉しそう顔がずっと心に残っている。おばあちゃん、たくさんのお話を教えてくれてありがとう。ずっと大好きだよ。

【優秀賞】

1	72	匿名希望	私のフェザンでの一番の思い出は、今はおでんせ館となっている辺りにあった「バルモのからくり時計」です。いつまであったのかも覚えていないのですが、30代半ばを過ぎた今でも、あのからくり時計の音楽と人形はなんとなく思い出出すことができます。最初の記憶は幼い頃に母と手をつなぎ、からくり時計を見上げた記憶です。時計が動いている時に出会ったときは、母と立ち止まって、「見られてよかったね」と喜んだ事を覚えています。その後一人で通ったときも時計が動いている時に出会った時は、温かい気持ちになっていたような気がします。今でも時々時計があった場所を通った時、幼い頃の私と母がそこにいるかのような、そんな二人に会ったような懐かしい気持ちになります。お店や内装が変わっても、フェザンが40年変わらず同じ場所で、同じ建物で営業してくれている事が、私の温かい小さな思い出を思い出させてくれます。ありがとうございます。
2	85	きさきりん	フェザンが開業して最初のゴールデンウィークだったでしょうか。私は学生アルバイトで、こどもの日のイベントの似顔絵描きをしました。たくさんのお客さんが訪れました。私の前でかしまる子、私の後ろで見物する子、たくさん笑顔に囲まれました。次第に、老若男女を問わずいろいろな人がやってくるようになりました。「アラレちゃんに出てくるセンペイさんみたいに描いてください」など注文も受けました。そして大学卒業後、私は小学校の教員になりました。勤務2校目で盛岡に帰ってきた私は、ある日、担任する子に呼び止められました。「先生、私、先生が描いた絵を持ってる。」なんのこ？「先生、フェザンで似顔絵を描いていたでしょ？先生のサインがあった」あ、そのとき、サインを書いてほしいという要望にお答えした親子連れがありました。運命という言葉を感じた瞬間です。あ、そのとき、同じ空間で過ごした人たち、今もどこかで会っているのかもかもしれません。
3	34	りんごあめ	私がまだ小学生だった頃、青森県に住んでいた私は、家族旅行といえれば岩手がお決まりのコースで、その際には毎回フェザンに寄って買い物をしていました。私は、あまりはっきりとは覚えていないのですが、祖父の話によると、私は当時フェザンの中にあっただサーティーワンが大好きで、よく祖父の手を引いて、色々なアイスを買って来てくれたそうです。私も今でも岩手が大好きで、岩手の大学に進学することを選択し、約2年前に盛岡で一人暮らしを始めました。ついこの間、祖父が癌で亡くなりましたが、祖父は帰省した私と顔を合わせるたびに、私が幼い頃には、何度もフェザンの中にあるサーティーワンに連れて行かれたと笑いながら話していました。当時フェザンにあったサーティーワンも、私の祖父も、もう亡くなってしまいましたが、私がまだ幼い頃にフェザンで祖父と過ごした楽しかった記憶は、ずっと私の心の中に残り続けるとても大切な思い出です。
4	36	匿名希望	フェザンのオープニング時に、ショップ店員として働いていた母。父はその母の姿に一目惚れし、声をかけたとのこと。その後結婚したふたり、結婚指輪もフェザンで購入。そのときのキャンペーンのくじ引きで、バリ島旅行に当選したそうです！それが新婚旅行となりました。私も小さな頃から、幾度となくフェザンに連れて行ってもらい、母と買い物を楽しみました。今や4人の孫がいる母ですが、フェザンが何周年という文字を見るたびに、若かりし頃の母の姿を思い出します。
5	25	猫まちこ	2013年から約5年間、盛岡駅の近くにある職場で期間職員として働いていました。勤務2年目の3月、お世話になった直属の上司が異動することとなり、同僚女子3人とフェザンへお別れを選びに行きました。黙黙だけと思いやりのある上司に選んだのは、シックなブルーのコインバス。それから2年後新しい上司も異動になり、同僚とまたフェザンへ御礼を選びに行きました。長身で笑顔が素敵な若い上司には、薄紫色のネクタイと、鉛筆をモチーフにしたネクタイピン。さらに1年後、今度は私が転職のため退職することになり、同僚たちからたくさんのお土産を頂きました。猫のデザインの懐中時計、夏向けの手提げバック、パジャマ、お家珈琲セット、みんな仕事帰りにフェザンで選んでくれたんだろうな。
6	58	N	1981年4月フェザン開業の頃、盛岡の高校に進学、私の電車通学が始まりました。高校生活と魅力的なお店の数々のフェザン、ワクワク感でいっぱい毎日でした。一番最初にフェザンで購入したのは入学してすぐ、キャラクターのキーホルダー。通学バッグにつけました。そして毎日のように帰り道は地下で、今日はクレープ今日はソフト！ポテト！昼で学校が終わる土曜は二階のUCCで鉄板の上に卵の載った熱々の焼きそばを同級生とよく食べました。今も自分で焼きそばを作る時はUCC風。
7	27	咲江	もう40年になるんですね。58歳の私は18歳専門学生の時から開業当時からフェザンとのおつきあいはじまりました。地元へ帰省する際、バスに乗る前には必ず地下のパン屋さんでパンを買ってバスの3時間の長旅をバスの中で食べながら帰ったものでした。その時代には流行の最先端のファッションがあり、週末土曜日は必ず通っていました。その昔、ロッテリアがあったり、地下の食品街に小さなスペースだったけど、くずまきワインを飲むことができる所があり、1カップ300円でよく「ほたる」「風」などののみました。その私が、結婚し娘が生まれ高校生となり、盛岡白百合学園に入学。娘とともにフェザンにお世話になったエピソードがあります。高1だった娘が部活で悩んでいた時、何も話してくれなかったので、フェザンに行って地下の「スープカレー」の店に入り、心が和んだのかだんだん話してくれ、笑顔になってカレーを食べ元気になったこと、思い出します。その娘も31歳。ママになりました。ありがとうございます。
8	44	たかさん	私の思い出は、抽選券を10枚集めて参加できるガラポン抽選。クリスマスの時期にやっていたことが記憶にある。特に最終日は、デイズニープ宿泊券や温泉1泊という特賞欲しさに、長蛇の列でありながら、順番を待った記憶がある。なぜ、そこまでして順番を待ったのか。私の場合、特賞でなくても、はずれで貰えるフェザンのロゴ入りティッシュ。これが、すごく魅力的だった。抽選券の半端を無駄にしないように買い物したことも覚えている。景品のはずれに良くありがちなポケットティッシュであるが、フェザンティッシュは、毎年、デザインの色が変わることや、パンパンにティッシュが詰まっており、貰ってうれしい品物でした。いつから、抽選、無くなったのかな？可能であれば、復活してほしい。最後の一つを大切にしていたが、引越越しやらで、見つからなかった。もう一度、あのティッシュを手にした。

9	46	ガラボンちゃん	フェザンが40周年ということ、私が17歳の時のオープンなんだ…館内に入ると、「フェザンふ〜う〜」の館内放送が流れた。懐かしい。久々に聞いた。そうそう、これこれ、これなのよ。この館内放送に懐かしさがこみあげてきた。当時はTVのCMでよく耳にしたものだ。新幹線が開通した後にオープンした駅ビル。今では当たり前のように「駅ビル」なんて言ってるけど何もなかった盛岡の駅前に初めて都会の雰囲気が出てきたのだ。それはもうワクワク。そして、フェザンといえば、ガラボンだ！長期のバイトができなかった短大時代の私の定番のバイトだった。他校の学生との交流もあるし、楽しかったという記憶しかない。そういえば、亡くなった母は「フェザンふ〜う〜♪」に連れて行って…と言っていた(笑)そして、私はその時の母の年齢をとっくに超えてしまった。そんな私は今、大学生の娘とフェザンに行く。ガラボンのバイトやらせたかったな。
10	62	金子清次郎三点盛り	高校生の頃、土曜日のランチはいつもフェザン2階のUCCだった。まだ昼まで授業があったあの頃、チャイムが鳴ると駅まで走った。友人と息を切らしながら、「何食べる？」が、土曜日の楽しみで、そこでのたわいもない会話が楽しかった。特に期末試験が終わった跡のご褒美もUCC。さんざん迷っても注文するものは決まっていたも「甘夏パルフェ」パルフェという響きが高校生の私にとってなんとなく心地良かった。大ぶり甘夏がガラスの器からはみ出して、それはいつもキラキラしていた。私はその甘夏を一口で頬張るのが好きだった。今でも友人と2階のあの場所に行くと、UCCの話題となる。「いつも決まってるあのパフェ食べてたよね。」と。私はその都度訂正する。「いやいや、パルフェな。」と。きつこの先もずっとこの会話は繰り返されるんだろうと思う。

【特別費】

1	2	ひろりん	「私とフェザン」 思えば40年前、開店当初から歩いてフェザンに買い物に行くのが私の散歩コースでした。結婚後も毎日歩きました。それから88年89年と息子が生まれ、子育てに追われていた90年の暮れの事、年末セールのお楽しみ抽選会で、次男が回したガラガラから、全部違う色の玉が飛び出して、一瞬皆がビックリ、なんと次男が1等から5等までを当ててしまったのです。その息子達も今は東京に住んでおり、夫と二人の生活になりましたが、私は今でもフェザンに行きます。まるで誰より歴史を知っている生誕人のように。駅ビルは今まで何回となく改装して、店並びも店員さんも当時とは変わりましたが、歩く途中に運橋から見える岩手山は、今でも相変わらず美しい。今日もまたフェザンに行きます、お気に入りの店でお洒落なスカートを探しに。
2	8	みーこ	私が20代の頃、フェザンのTVCMにはメロディーがあってCMの最後に「フェザンフーワー」と、流れていました。当時一緒に働いていた同僚は盛岡駅の裏側に住んでいて、ある日タクシーに乗って帰ったときドライバーさんに「どちらまで？」と聞かれ、「はい、フェザンフーワーまでお願いします。」するとドライバーさんはにっこり「フェザンフーワーですね。」同僚は後から、フェザンフーワーではなく、フェザンという名前だったことに気づき、職場で話してくれ大爆笑でした。40年経っても思い出して笑えます。そして、そのときの同僚は今でも仲良しで、いまだに待ち合わせはフェザンです。
3	11	ぼよぼよ	今から30年近く前、地元沿岸に就職した私と友人2人は、年数回フェザンでショッピングを楽しんでいました。当時1階に“MAKELET(メイクレット)”という上品な婦人服のお店がありました。アンサンブルやスカートなど、品がありながら取らない商品ラインナップは私たちの好みそのものですが、中でもワンピースはドストライクの商品ばかり！「あれもこれも」と目移りするも、当時は就職したばかりで何着も購入する余裕はなく、1着のみを厳選することが多くありました。毎回3人それぞれが試着をして、お互い見せあって感想を言い合っていてそうして選んだ1着を購入すると、弾むような気分になったものです。そのワンピースを着て映っている写真を見るたびに、あのフェザンでの楽しいひと時が鮮明に蘇ってきます。慣れない運転で盛岡に向かう道中のガールズトーク、そして若くて可愛かった私たち、すべてが素敵な思い出です。
4	16	てるみ	大学1年生の冬、私は初めて母へのプレゼントをフェザンで購入した。お店の入口が近づくくと徐々に強くなる、都会のOLを一同に集めたような強烈な匂いに、緊張感が高まり、何度も素通りした。その日、意を決して一步を踏み出すと、鮮やかな店内に負けないうらいキラキラしたお姉さんが笑顔で対応してくれた。色とりどりの丸や四角の石鹸が並ぶ中で、私の話を聞いたお姉さんが持ってきたのはシンプルで黒い容器。赤や緑の派手な石鹸に心惹かれていた私は、少し残念な気もしたが、それ以上におでこの止まらない汗が気になっていた。“前髪があって良かった。こんなに汗をかいてもきつと気づかれない”と自分のプライドを守るのに必死だった。購入し店をでると、傍らの自動ドアから入る冬の外気が前髪を通りぬけ、濡れたおでこが気持ちよかった。あれから10年、たまに母は「買ってくれたよね、黒いの」と嬉しそうに話、私はいまでもこの前髪に緊張を隠すことがある。
5	17	ぞうぞうたらふく	あれはまだ、私が高校生の頃のこと、土曜日でも課外授業があり、その帰りにはいつもフェザンでウィンドウショッピングするのが楽しみでした。大学受験を控えた夏、私は学校帰りにある人と待ち合わせをしたのですが、その場所もやっぱりフェザン。憧れの先輩から、バンドのCDを借りる約束でした。少し遅れると連絡をくれた先輩を待つ間、2階の化粧室で髪を直したり、リップを塗ってみたり、その時は気づいていませんでしたが、あれは好きな人を持つ女の子がすることに違いありませんでした。CDを手渡してくれたとき「今通っている学生生活はかけがえのない時だから、大切にしてほしい」なんて恥ずかしすぎる台詞を放ったその先輩と、今度結婚します。大変な世の中に生きていますが、あの日のようにこの今を大切に感じながらこの街で暮らしていけたらいいと思っています。大事な思い出を、ありがとうございます。
6	20	むらちゃん	「1993年世界アルペン、フェザンでの思い出」 1993年アジア初のアルペンスキー世界選手権が盛岡磐石で開催された時の事でした。私たちはボランティアとしてフェザンを会場に当時戦争をしていたオリンピックを開催したこともあるサラエゴエイドをしようと、催事場をお借りして外国人の参加者の為にパーザー、和服の試着してもらいました。試合が終わった選手や役員が全国から集まった日本ならではの着物や食器を買っていただきました。その益金は伊藤みどりさんを通じてサラエゴのアスリートに届けられました。今は理解いただき会場の設営からご協力頂いた皆さまには感謝しかありません。当時天候不順でキャンセルになることもありましたが、その時急遽次期世界選手権開催予定のスペインから視察にきていた大会役員の皆さまをお願いをして、パティオでフラメンコを踊っていただきました。素晴らしい文化に触れて感動でしたが、もっと嬉しかったのはその様子が翌日岩手日報の一面にカラーで大きく載ったことでした。
7	21	きのか	今から34年前、大学生になって困ったのが私服だった。高校まで、学校指定の制服と体操着が中心で私服をほとんど持っておらず、ファッションに無知だった頃、フェザンに行くと最新のファッションがリーズナブルに提供されていた。服を買いに通うようになると店員達がフレンドリーにアドバイスをしてくれセンスと知識を磨くことができ買物が楽しくなった。10代後半から50代後半の今でも、ファッションの全般の御用達はフェザンです。また、飲食店も楽しみの一つであった。当時南側2Fに人気のカフェがあり、「目玉焼きオントップ鉄板焼きそば」が安く美味しく、大人気メニューだった。豊富なドリンクメニューと一緒に友人や家族と飲食するのが王道のレジャーだったことを思い出す。以後、テナント入替や改装の変化を味わいつつも、当時のわくわくした感覚は同じく、フェザンを愛用しています。
8	29	ねこのあしあと	「一緒に40年を振り返りましょう」そんな優しいフレーズに、記憶を遡った。母に誘われて電車に乗りフェザンを訪れたのは39年前。それは私が19歳目目の初冬の事。目的はフェザンのきもの屋さんで成人式の振袖を選ぶ事。私は「赤い着物を選んだら親や祖母は喜ぶに違いない」とワインレッドの地色に洋ランが描かれた振袖を選んだ。その後も結納や嫁入り用の着物選びに何度か通った。母は専業主婦で、裕福ではなかったが「婚礼タンスに着物を」とせせせと通った。母は家娘で自分の婚礼用の着物を準備するようなこともなく、私への着物選びを自分の事のように楽しんでいたのかな。私の振袖は娘の成人式に「ママ振り」として28年ぶりに復活。リメイク用の帯を探し回り、フェザンで見つけた黒地に金銀の花模様、イメージ通りの帯に満足。娘の成人式に彩りを添えた。実際のところ着物1枚買うのも大変だったでしょう。今更ながら母の苦勞を思い、感謝した。

9	33	ぶぶ64	1981年6月ボーナスを手にした私と彼女は岩手で一番のショッピングモールの盛岡フェザンを訪れた。ダイヤモンド指輪(婚約指輪)を購入するためだった。当時は見る物、目に映るものすべてが新鮮でキラキラ光っていた。広いフェザンをうろろしながら宝石店へ緊張しながら予算の中で購入できそうなダイヤモンドを彼女と一緒に見て触れて親切な店員さんのアドバイスのもと、給料3カ月分のダイヤモンドを購入して、人生一大イベントを終えました。あの当時なぜ地元一関ではなく盛岡まで足を運んだのか?やはり「フェザン」という「ブランド力」が魅力だったのでしょうか。そして昨日新しくなったフェザンには宝石店は見当たりませんでした。これからも岩手のターミナル盛岡の顔として、発展し続けてください。嫁も還暦を迎え2人の子供、2人の孫に恵まれて幸せに暮らしています。
10	41	匿名希望	駅ビルは思いがけない出逢いがある。当時、80歳の母と私はフェザン地下のレストラン街を利用することが多かった。特にうどんの店は気に入って常連客だった。その日も夕食にうどんを食べて帰ろうと店に入った。私たちが席に着き待っていたら、70代と思われる男性がやって来た。私は忘れ物を探しに来たのかと思ったが違った。男性は「あまりにお母さんが私の母に似ているので」と言う。母は耳の聞こえが悪いので不思議な顔をしている。すぐに私は母へ、なぜ男性が私達のテーブルに来たか説明した。母はここにこ顔していた。そこへ男性の奥さんが来て思い出の話をした。男性が感激し「今日はここに来なかった」と満足して帰って行った。私達は懐かしさで涙顔になった男性を見送った。私の母は昨年、天寿を全うし新盆を迎える。この思い出を書きながら、私は心の中の母に会っていた。男性も同じだった思う。
11	49	オミママ	フェザンができた40年前我が家の息子は5歳でした。テレビで度々流れるフェザンのCMと一緒に見ていましたが「フェザン」と言った後に「フーワー」と音楽的なものが付いていたのです。それで息子は「フェザンフーワー」というお店だと思ってしまって、いつも「フェザンフーワーに行きたい、フェザンフーワーに連れて行って」と言うのです。その度になんだかおかしく笑ってしまいましたが、可愛い息子のために私も「フェザンフーワー」と言うようになり、「さあフェザンフーワーに行くわよ」と出かけていました。その息子も今や45歳となり離れた東京で暮らしていますが、あの頃のことを覚えているでしょうか…創業当時のCMの音声、もし残っていたらもう一度懐かしく聞いてみたいです。そして、私は、FES'ANの「ザ」が「S」ということにびっくり、新鮮さを感じて「考えた方は、すごい!」と感動したことを、今もはっきり覚えています。
12	53	丹波ともこ	フェザンは母との散歩コースだった。認知症状の出始めた母は、娘が来ると外に行きたいと訴えた。父と二人だけの生活では、息が詰まっていたのだろう。菜園のマンションを出ると、母は嬉しそうにフェザンが川徳に行きたいと言った。買い物をしたかったのだ。開運橋で岩手山に一礼し、それから娘の腕に寄りかかって童謡を歌って歩く。そんな母がフェザンに着くなりシャキッとした。一人で店に入って行くこともあった。かわい子供服やきれいな小物を見ると、そっと撫でていたっけ。何か買ってあげたいと言う母に、ありがとうと何度も答えていると、その内に母は離れた。物の無い時代と戦争も体験した母だった。留守番の父を思い出して惣菜を買うこともあった。初めてプリクラも撮った。この幸せな時間が永遠にと願った私。ゆっくり子供に選んでいく母との、珠玉のときを過ごせたあの散歩。だから、母を看取った今でも、娘の私はふとフェザンを訪ねてしまう。
13	55	さちこ	子供のころは町に出かけるときは外出着であった。盛岡ステーションデパートもお出かけの場所であったが、そこがフェザンに生まれ変わった時は、まるで都会がやって来た思いになった。働いていた私は、冬には大きな襟の洒落たコートを求め、仕事に遊びに長く愛用していた。楽しい冬のひとこまである。そして冬といえば、催事場の広場には、大きな大きなクリスマスツリーが飾られて、家庭のツリーしか知らない私は、見上げるツリーに驚きと美しさに目をみはるばかりでした。赤いリボンで飾られたり、白いテープが巻かれたり、デザインも素敵でした。今でこそ、インスタ映えでしょう。当時は友達と写真撮影を楽しみ、その写真でテレホンカードを作り、その「感動」が大切な思い出です。自粛生活の今、あの場所に再現してはどうでしょうか。どこにも出かけられなくても、フェザンが、私の街、心の居場所として、幸せなクリスマスを感じられますように…。
14	68	A Budget Traveler	1981年初夏のフェザン。オープンしたてのブティックや雑貨店が並ぶフロアに、化粧品系の香気とUCCショップのカレーの芳香がかすかに漂っていた。多言語による館内アナウンスは、時代が変わったことを感じさせた。新皇堂からはアバの「ザ・ウィナー」が流れていた。そして、高校生の私は館内を歩きまわると、ある女性に初めて声をかける勇気をかこれ4時間も探っていた。彼女は店で働く年上の美しい人だ。数日前、通りがかりに偶然見かけ、笑顔に心を奪われた。閉館を知らせるアニーローリーの調べが、優柔不断な私の心を押してくれた。見知らぬ年下の男から声をかけられた彼女は少し驚きながらも微笑んでくれた。今も心によみがえる、胸の高まり、一緒に歩いた夏の日、心躍る日々。そしてほどなく経験することになる別れの痛み。手を伸ばしてももう届かない、遠いあの頃。あの日フェザンから始まったはかない恋愛の記憶は私の中でひっそりと輝く。
15	77	もも	かれこれ24年前のこと、付き合っていた彼がフェザンのVeriteという宝石屋さんから婚約指輪を買ってプレゼントしてくれました。その時期は、年末抽選会の時期、たくさん抽選券と共に…。婚約指輪も嬉しかったのですが、抽選券の束を見て大興奮の私でした。ダブルで嬉しくて、抽選会場に持って行くと、『108回。除夜の鐘ですわね』と受付の方に言われ、一気に恥ずかしくなり、特賞ペアハワイ旅行だけを目指して、超速で回しました。結果は…CDやお菓子やボケッティッシュの山。そして!なんと、その後、数回抽選した姉がハワイ旅行ゲットしたのです。それからは、フェザンの抽選会場に行くことあの時の興奮・希望と絶望が、走馬灯のように思い出されます。
16	79	たま	私の思い出は煎餅ロードである。この名前が公式か、盛岡市民の造語だったのかは記憶にないが私の周囲ではこう呼んでいた。30年以上前の子供時代、地下街の今は焼鳥日本一がある通路に南部煎餅屋があった。そこを通ると、満面笑顔の年配女性店員さんが「どうぞ食べて下さい」と試食のクッキータイプの煎餅をくれた。試食にもかかわらず通常サイズを1枚。未包装で剥き出しだが、近所の仲良しのおばちゃんにおやつをもらったような気分になり嬉しかった。困ったのは、香ばしい匂いに我慢できず1枚完食すると腹がいっぱいになり、楽しみの一つであるレストラン街の食事が入らなくなることである。フェザンへの訪問は我が家の年1回の特別イベントだったため、外食が楽しみで仕方なかった。しかし、思い返すと煎餅ロードも年1回の楽しい特別イベントの一つだった。期間限定の有料でいいので煎餅ロードを再現して欲しいと思う。
17	81	まっこ	手のひらサイズのメロンパンのひとつ目は必ず真ん中。車が大好きな3歳の孫とのバスでのお出かけ時はいつも同じ店の同じメロンパンで休憩。40年前、小学生だった私は今は亡き祖母とのフェザンへのお出かけはとでも楽しみだった。2階にあるレストランの窓際の席でバスロータリーのバスを眺めながらホワイトソースがかけられていたピラフをいただくのがお約束であった。ソースの色が曖昧な記憶となっているのが少し残念に思うが、40年という間に塗り替えられたお気に入りが入りがたくさんある。思えば5世代にわたりフェザンという場所が繋がっている。初売から1年が始まり、通勤通学で家族の誰かが立ち寄り、1年の終わりにフェザンの我が家。孫だった私が孫を連れて外出を楽しんでいる。目の前でとびっきりの笑顔でメロンパンをほおぼる孫へとこの場所をつないでいることは私の自慢かな。
18	83	かぐママ	「憧れ」から「故郷」へ「フェザン」といえば、県南に住んでいる私にとって憧れの駅ビルでした。小学生の頃は、年に一度、母に連れてってもらうことが楽しくて仕方ありませんでした。洋服や美味しいものを買ってもらうことは勿論でしたが、一階フェザンパティオから三階の吹き抜けのあるフロアを見上げるのが、毎度の楽しみだったのを覚えています。今思えば、見上げている様子は滑稽だったかなと笑ってしまいます。数年後、実家から盛岡の大学に通うようになってからは、ほぼ毎日フェザンに入りにするようになりました。友人とランチやお茶をしたり、電車の待ち時間に一人でプラプラしてみたり、時にはベンチで勉強をして過ごしたりしました。フェザンパティオから見上げる両端の階段も、いつしか迷わず使い分けられるようになりました。今では、行くところの懐かしい場所に変化した、第二の故郷フェザン。私の子供たちにとっても、そうあってほしいと願っています。

19	88	パーシュ	18歳の長女の大学受験。現在36歳になる長女。今から18年前。東京駅から新幹線に乗り初めて盛岡駅へ降りました。本当に初めて来た盛岡。地理的なことはわからず予約したホテルへ直行。翌日、娘はホテルから用意された受験生専用バスで岩手大学へ。残った私は、あてもなく盛岡駅へ戻り、この長い待ち時間をどう過ごすか考えようろう。フェザンの1階、イスの置かれた場所発見。待つことを苦としない私はずっと受験が終わるまで座り続けました。本当にお世話になった空間「フェザンパティオ」娘卒業後、大好きな盛岡へ戻り仕事に取り組んでいます。私はフェザンへ来るたびに、この大切な空間「パティオ」が同じ場所に残っていることに感謝。「18年前、長い時間ありがとうございました。」
20	6	げぐち	フェザン40周年おめでとうございます。盛岡の顔としてこれからも末永く宜しくお願いします。 私の一番の思い出は1999年にフェザン1F旧出会いの広場で友人と聞いた、Something Elseの「ラストチャンス」です。当時流行していた「電波少年」という番組の企画です。月を掛けて彼等が部屋にこもって作詞・作曲する姿を視聴しており、生で歌を聞いた時は嬉しかったです、しかし、彼等の原点ということでマイクオフの地声で歌っていたのが印象的でした。正確な人数はわかりませんが、出逢いの広場と2F・3Fからも見ている人数を合わせると300人位は居たのではないかと思います。 今でこそ仕事の関係で東京へ出張することもあります、高校生の時分としては東京はあまりにも遠い憧れでした。イベントを通じて都会の風を感じることが出来ました。ありがとうございました。
21	22	な	フェザンの飲食店で4年間、アルバイトとして働かせていただきました。無知な私に働く事の楽しさや大変さを教えてくれたのは紛れもなくフェザンです。盛岡の玄関口・フェザンは県内外、時には海外からもお客様が来るため、臨機応変な接客力が必要です。アメリカから来た観光客のカップルに、拙い英語とジェスチャーで何とか商品を買ってもらえた時の達成感を鮮明に覚えています。中でも印象的なお客様は、店内飲食をなさった女性です。後日、私の接客に元気をもらったと満面の笑みでホールケーキを持って再来店して下さったのです。あれから約10年経ちましたが、あの時に心の奥で感じた喜びを忘れられません。一生の思い出です。幸運だったサラリーマンの方やおばあちゃん、同僚とも退職後それっきりになってしまいました。お元氣でしょうか。またお会いしたいです。スタッフの皆さま、日々、岩手・盛岡の顔として勤めて下さりありがとうございます。
22	47	オビ	30年程前の事です。奥州江刺に埼玉からUターンして間もなくの事でした。盛岡に住んでいた姉が「フェザンサマーセール」のガラポンでハワイ旅行を当てたので私に行かないかと電話が！私はその年の1月に入社してだったので休日を取るのとは、かなり悩みましたが、これは行くしかない！と権利をもらい26歳、初の海外旅行へ。たしか、盛岡周辺、秋田、古川など全く見知らぬ方々30人ほどのツアーだったと思います。一週間ほどしかない有給休暇全てを使い、事前説明会、そして人生初のパスポート取得と心は踊るばかりでした。旅行中は、同行者様の親切な誘導のもとたくさんのオプションツアーを楽しめました。中でも夕陽を眺めながらのサンセットクルーズは今でもはっきりと目に焼き付いています。帰国後、盛岡に数名が集い、あの日の感動を語りあいお酒を飲み交わす会を主催してくれたのもフェザンの担当者様でした。突然の電宮城行き切符をありがとうございます。
23	52	チョコでほっこり	フェザンができた頃、私は学生でした。今「カネイリ」さんが入っている辺りだったと思うのですが、ハンバーガーショップでアルバイトをしました。けっこうな人数が採用され、研修をしっかりと受け、いざオープン。すごい来客数でした。特に日曜日はレジ前に長蛇の列。レジ担当の私は声がかれ、「ポテトはいかがですか？」と付け加えるのも度々忘れていました。当時盛岡にはファストフード店が少なかったこともあり、混んだのでしょうか。あんなに短いオレンジのスカートを履いたのはあの頃だけです。東京まで行くのに特急に乗っていたのが、新幹線であつという間に。駅が新しくなり、フェザンもオープンし、盛岡全体が洗練されたような気持ちになりました。
24	54	もりねこ	3年前に当時の彼女（現在の妻）と結婚後に住むアパートを決めてフェザンの銀河堂でお茶をしていた時のことです。彼女が「プロポーズもされていないのに結婚後に住む場所を決めるなんて不思議」と言ってきました。その2週間程前に私は彼女の部屋でプロポーズをしたつもりになっていました。ところが彼女にはそれはプロポーズとは受け取られていなかったようです。 「結婚式場の予約をした」と伝えた時も彼女にとってはプロポーズ前だったみたいです。銀河堂で改めてプロポーズをして正式にOKのお返事をいただきました。そういうわけでフェザンの銀河堂は正式にプロポーズをした思い出の場所です。
25	59	りんご屋のばば	フェザンが開店して1年経った頃、母と妹の3人で訪れた時の事です。館内を歩いていると呉服屋さんがありました。成人式が近かったのもちょっとのぞいてみようとする薄紫色で総絞りの振袖が母の目に留まりました。「きれいで素敵な振袖だね」と話しているとは母は買ってくれろと言うのです。安くはないし、農家である我が家には負担が大きすぎると思い「いらないよ」と言ったのですが、妹も着るし、と母の強い勧めで結局買ってもらいました。母には感謝しかありませんでした。購入手続きが終わると、百枚以上もある福引券を渡されました。特等は旅行だったと思います。当選したら誰が行くんだろう。私が行けるかなとワクワク、ドキドキしながら抽選会場に向かいました。終わってみたら未等に近い景品と紙袋いっぱいのティッシュでした。残念！！その振袖は、友人や親戚の結婚式などで活躍し、30年後には姪の成人式に。そしてあと15年後には、孫が成人式に着てくれたらなと思う私です。
26	87	匿名希望	フェザンが開店したのは、中学2年のころでした。地元にはなかった素敵な洋服や可愛い雑貨やファストフードなどがあり、当時の14歳の女の子にとっては心が癒される特別な場所でした。なかでも、心に残っているフェザンにまつわる1番の思い出は、食べ物に関わるエピソードです。中学の頃友人たちと地下の喫茶店でアイスやフルーツがのったフラッペを食べてみたいと盛り上がりました。勿論校則破りです。必死に死角になる席に座り、こそこそ食べたフラッペの味は罪悪感も加味されてか複雑なものでした。今50代になった私にとってもフェザンは相変わらず癒しの場所です。店内をお散歩がてらファッションの流行をチェックすることが楽しみのひとつです。これからも我々を含め様々な年代の人にとって居心地のよいお店であって下されば、うれしいです。
27	90	アン	部屋の大掃除をしていたら、一枚の写真を発見しました！ もう何年前か忘れてしまいましたが、子供を出産する前でしたので、27年以上前のことだと思います。 毎年開催している、「北上川ポート川下り」で、フェザンチームで出場者を募集していて、主人と応募しました。オーディションで勝ち抜いて、出場！「パフォーマンス部門」だったでしょうか？コスチュームを着ての参加でした。私たちは、ミッキーとミニーの衣装でした。初めての川下り。もうすぐ、ゴールの所で、なんと橋にぶつかり転落！川の流れ速い！泳げない私は、「もう溺れるー！」と思っていた時、旦那に手をつかまれポートに戻されました。最後は、水に濡れドブネズミ状態でしたが、いい思い出です。
28	97	クロソイ	私にとってフェザンとは大人の入り口でした。毎月新星堂へアルバムを買い、タカキューで服を見て、近いの印度亭で辛さが5売カレーを食べるのがパターンでした。ロッセリアに行けばいつもきれいな女性がいてコーヒーを飲んでいて、そのしぐさに惹かれました。当時は「オトナの女性はこうなのか！」と思ったものでした。二階の化粧品売り場で買った人生初のタブレット「アルトイズ」のマイルドな甘さは今でも忘れられません。ホワイトデーでは女性の店員さんに相談したり思い出したらキリがありません。当時は無料コンサートもあって初めてコンサートを体験しました。（マルタさんです）このように大人になる絶日にとってフェザンはとてもきらめいていました。あれから40念。今は双子の高1の娘がフェザンに通っています。これからもキラキラして感動に満ちたフェザンでありますようにお願いします。